

# 回転寿司の生みの親



**白石義明さん【中曽根町出身】**  
(大正2年 - 平成13年)  
元禄産業株式会社(東大阪市)元・会長



昭和33年4月に開店した東大阪市の直営1号店(提供写真)



昭和35年3月に開店した道頓堀店の店内(提供写真)



現社長・白石博志さん

生前、義明さんは四国中央市にどのような思いを持っていましたか？  
今もきょうだいが生んでいますし、先祖を大事にしていたので、お墓参りなどで年に何回も



ステンレスで作られた昔のレーン。当時合う現在はプラスチック製の部品を、試行錯誤の末に開発されたものです。



現在の社屋と本店

市内外で活躍する、本市に縁のある「ひと」を紹介する「ヒューマンヒストリー・ルーツ」。

第1回目は、回転寿司を発明した、本市中曽根町出身で元禄産業株式会社(東大阪市)元会長・白石義明さん(故人)です。

家族連れなどで気軽に寿司を味わうことができると回転寿司。今やその人気は国内だけでなく世界各国に広がっています。

そんな回転寿司の生みの親、白石義明さんのエピソードを、ご息であり現在の同社社長、白石博志さんにお聞きしました。

とてもにぎやかで、寿司屋も繁盛していたことから、隣の寿司屋で握り方を教わり、割烹店もしながら寿司屋を始めました。

ただ、商売はうまくいったのですが、人手が足りない。「何とかしないといけない」と考えていた時にビール工場の見学会があり、ベルトコンベヤーでビール瓶が運ばれていくのを見て「こんな風に寿司が流れたら合理化できるし、おもしろいだろっ」と思いついたのが回転寿司のきっかけです。

当時からこの辺りには工場も多くあり、知恵と環境がそろって、回転寿司が生まれたと言えます。

最後に、回転寿司の発祥・元禄寿司の将来像を教えてください。

日本は海が豊かで魚がおいしいので、寿司の文化はまだまだ進化すると思います。

父は「まずお客さんに喜んでもらい、その後自分が喜ぶ。利益は後回し」という考え方でした。その理念をこれからも引き継ぎ、安心できる食材を使ってお客さんに喜んでもらいたいと思います。それと、嘘はついたらダメ。愛媛のジュースのように、「まじめに」商売をしていきたいと思っています。

博志さんご自身は四国中央市にどんな印象をお持ちですか？

私も4歳まで伊予三島に住んでいましたし、今でもよく帰っています。「山も海もあっていいところだな」といつも思います。やはり、懐かしいですね。

広報四国中央 5月号  
(平成29年5月1日発行)

編集・発行 四国中央市役所 総務課 広報広聴係  
愛媛県四国中央市三島宮川4丁目6番55号  
08996・28・6000

Webサイト <https://www.city.shikokuchuo.shime.jp/>  
携帯サイト <http://www.city.shikokuchuo.shime.jp/mobile/>

